

STAGE+を楽しむ(272)(HP 収載)
—モンテヴェルディの歌劇《オルフェオ》—

1. 始めに

前報(271)に引き続き、STAGE+のモンテヴェルディの歌劇《オルフェオ》の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、STAGE+のモンテヴェルディの歌劇《オルフェオ》の演奏を選びました。

巨匠ガーディナーがバロック・オペラの金字塔《オルフェオ》を指揮

イングリッシュ・バロック・ソロイスツ

収録日: 2017 年 1 月 1 日

古楽の巨匠エリオット・ガーディナーは、モンテヴェルディ生誕 450 年にあたる 2017 年に「Monteverdi450」を立ち上げ、演奏ツアーも行ないました。彼は同年、バロック・オペラの金字塔である《オルフェオ》(1607 年初演)を歴史あるヴェネツィアのフェニーチェ座で上演し、その演出も手掛けました。モンテヴェルディを愛するガーディナー率いるイングリッシュ・バロック・ソロイスツ&モンテヴェルディ合唱団、そしてタイトル・ロールを演じるクリスティアン・アダムら古楽のスペシャリストによる演奏は聴き逃せません。

ソリスト:

ハナ・ブラシコヴァ (ソプラノ)、アンナ・デニス (ソプラノ)、フランチェスカ・ボンコンパーニ (ソプラノ)、リュシール・リシャルド (メゾソプラノ)、カンミン・ジャスティン・キム (カウンターテノール)、クリスティアン・アダム (テノール)、フランシスコ・フェルナンデス=ルエダ (テノール)、ガレス・トレシダー (テノール)、ミハウ・チェルニアフスキ (カウンターテノール)、ザッカリー・ワイルダー (テノール)、ジョン・テイラー・ウード (バスバリトン)、フリオ・ザナージ (バリトン)、ジャンルカ・ブラット (バス)

演奏:

イングリッシュ・バロック・ソロイスツ、モンテヴェルディ合唱団

指揮:

ジョン・エリオット・ガーディナー

曲目:

クラウディオ・モンテヴェルディ 歌劇《オルフェオ》SV 318



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。さらに、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への **Crystal EpY-G** の接続を継続し、PC の仮想アース **Crystal E Jtune** に **Crystal E** を連結しています。また、ルーター→スイッチングハブ間の LAN 接続に **OPT ISO BOX** を適用し、**OPT ISO BOX** の AC アダプターの DC ケーブルに **FX Audio** の **Petit Susie Solid State** を介在させてスイッチング電源からのノイズの低減を図っています。さらに今回もスイッチングハブ→PC 間 LAN 接続には **OPT ISO BOX** に代って適用した **LAN iPurifier Pro** の電源を **iPower2** に交換しています。今回は、PC の受信から **Sonica DAC** に送り出して再生しています。モンテヴェルディのバロック・オペラの代表作の《オルフェオ》でモンテヴェルディを得意とするガーディナーがイングリッシュ・バロック・ソロイスツとモンテヴェルディ合唱団を率いての演奏です。オペラと言えば、指揮者とオーケストラはピットに入っの演奏ですが、指揮者もオーケストラもソリストや合唱陣と同じステージ上での演奏です。モンテヴェルディの音楽らしく、しっとりとしたバロックアンサンブルの古楽器群の演奏をバックに、哀愁を込めつつ、激情を吐露する際もどこか抑制を効かせながらもソリスト達と合唱陣の歌唱が展開していきます。下掲の写真にあるような見かけない管楽器の演奏も見られました。





4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツや Crystal EpY-G や PC の仮想アース Crystal E Jtune に Crystal E を連結し、LAN 接続に OPT ISO BOX と電源交換した LAN iPurifier Pro を適用し、さらに GPS クロックを入力した SWD-DA20 に送り出して再生した結果、モンテヴェルディの音楽らしく、しっとりしたアンサンブルと哀愁を込めたソリスト達と合唱陣の歌唱が聴けました。

以上